

庄内平野東縁断層帯の長期評価の一部改訂について

平成21年10月19日

総務部危機管理室

1 長期評価の改訂とその公表

文部科学省（地震調査研究推進本部地震調査委員会）は、平成17年4月に公表した庄内平野東縁断層帯の長期評価について、その予測精度を向上させるため、平成18年11月に実施した補完調査の結果に基づき長期評価の改訂を行い、10月19日17:00にその内容を公表した。

2 庄内平野東縁断層帯の長期評価の改訂内容

前回の長期評価は、断層帯の全てが同時に活動した場合を評価したものであるが、今回の評価では、北部と南部に活動区間を分け、それぞれが単独で活動した場合の地震規模及び発生確率が示された。

- (1) 北部の地震規模はマグニチュード（以下「M」）7.1程度、今後30年以内の地震確率はほぼ0%
- (2) 南部の地震規模はM6.9程度、今後30年以内の地震確率は0%～6%
- (3) 活断層全体が同時に活動する場合の地震規模は、前回と同じM7.5程度

項目	前回の評価 (H17.4.13 公表)	今回の評価 (H21.10.19 公表)
長さ	約38km（遊佐町～鶴岡市）	全体：約38km 北部：約24km（遊佐町～酒田市） 南部：約17km（酒田市～鶴岡市）
最新活動時期	約3000年前以後、18世紀末以前	北部：1894年庄内地震 南部：約3000年前以後、18世紀末以前
平均活動間隔	2400～4600年程度	北部：1000～1500年程度 南部：約2500～4600年
地震の規模	M7.5程度	全体：7.5程度、北部：7.1程度、南部：6.9程度
地震発生確率 (30年)	ほぼ0%～6%	北部：ほぼ0%、南部：ほぼ0%～6%

3 地元説明会の開催

日時、場所：平成21年10月27日（火）14:00～16:00 山形県消防学校 視聴覚教室（2階）

主催：文部科学省、山形県

参集範囲：県、市町村、消防本部など防災関係機関、報道関係者

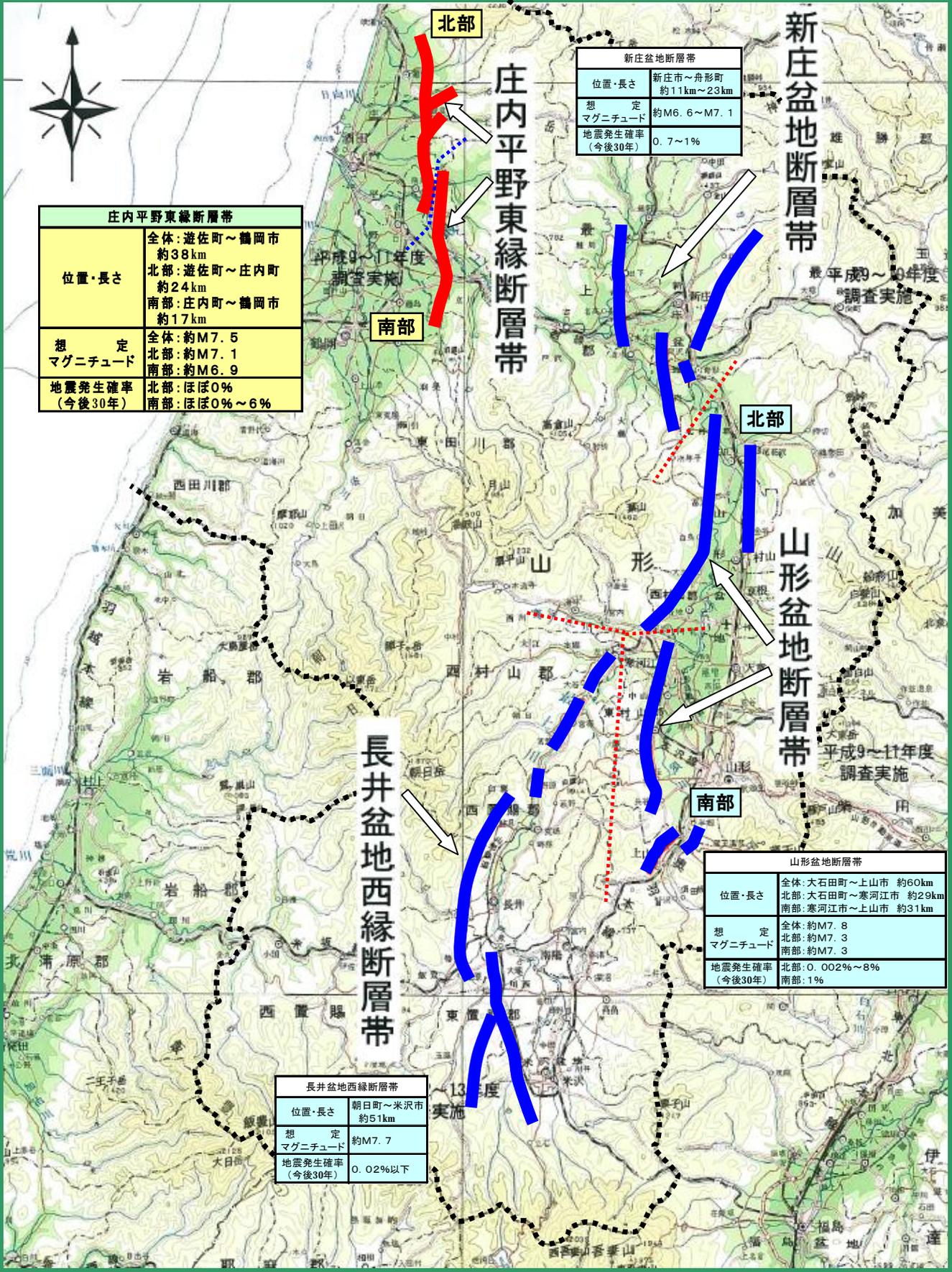
説明内容：庄内平野東縁断層帯の長期評価の一部改訂について（文部科学省）など

4 県の対応

今回の改訂は、北部と南部に分けての評価となったが、大地震の発生の可能性という点においては、前回の内容と大きな差異はないと判断される。

このため、引き続き、大規模地震の発生に備え、被害の最小限化を図るため、建築物の耐震化や自主防災組織の育成強化、災害時要援護者対策の推進、広域応援体制の強化など、山形県地域防災計画の着実な実施を図る。

山形県の活断層



庄内平野東縁断層帯	
位置・長さ	全体: 遊佐町～鶴岡市 約38km 北部: 遊佐町～庄内町 約24km 南部: 庄内町～鶴岡市 約17km
想定マグニチュード	全体: 約M7.5 北部: 約M7.1 南部: 約M6.9
地震発生確率 (今後30年)	北部: ほぼ0% 南部: ほぼ0%～6%

新庄盆地断層帯	
位置・長さ	新庄市～舟形町 約11km～23km
想定マグニチュード	約M6.6～M7.1
地震発生確率 (今後30年)	0.7～1%

山形盆地断層帯	
位置・長さ	全体: 大石田町～上山市 約60km 北部: 大石田町～寒河江市 約29km 南部: 寒河江市～上山市 約31km
想定マグニチュード	全体: 約M7.8 北部: 約M7.3 南部: 約M7.3
地震発生確率 (今後30年)	北部: 0.002%～8% 南部: 1%

長井盆地西縁断層帯	
位置・長さ	朝日町～米沢市 約51km
想定マグニチュード	約M7.7
地震発生確率 (今後30年)	0.02%以下